



『カストーディアル』（5月26日）を振り返って・・・

<みんなの感想より>

- ミッキーやキャラクターだけでなく、キャストまでが夢と感動を与えていると思いました。でも、それには、1人ひとりの努力があって、決められたことだけをやるんじゃなくて、他にも自分には何ができるかをよく考えて仕事をしています。（女子）
- ディズニーランドで働いている人は、お金のためだけではなく、ゲストを第一に考え、みんなの「夢」をつくるために一生懸命働いているとわかった。（男子）
- 夢は人がもつものだと思っていたが、東京ディズニーランドは夢を与える場だったんだということが分かった。（女子）
- 仕事を頑張る理由は、給料がもらえることもそうだけど、仕事が楽しかったりお客さんを喜ばせたいから、というのもある。僕は後者の理由で仕事を頑張りたいと思った。（男子）
- カストーディアルはどちらかというと、裏の仕事ではなやかなイメージではないけど、そんな裏方の人たちが頑張ってくれるからこそ、ディズニーは人々が楽しめると思った。学校でも、体育大会や合唱コンは裏で委員の人や先生などの人の準備や計画のおかげで楽しめていると思った。裏方の人にもっと感謝したいと思った。（女子）
- この仕事に限らず、普段から周りのことに気が利く人間になることが大切だと思うし、そうすることが人のためにもなる。（男子）
- 自分の仕事に常に誇りを持ち、人を笑顔にする仕事は、いくらつかれていても力がわいてくるのでイイなと思った。目に見えているものがきれいだと自分自身の心もきれいになるし、自分のきたないところ、ダメなところをきれいにしている感じもする。（女子）
- 人のためにがんばる職業、それはこの社会の仕事のすべてにおけるものだと思います。誰かが何かを作り、またそれを誰かがみんなに与える。今回のカストーディアルさんは、夢をつくり、それと一緒に感動を与えていました。たかが清掃…とってははいけません。（男子）
- 仕事というのは「自分のしたいこと」でもあると前の授業で習ったけど、それだけじゃなくて、「自分のしたいことで、相手が安心できたり、楽しんでくれたり、うれしくできるようなこと」なんだなと思った。私も保育園に行くと、迷惑をかけると思うけど、園児が楽しんでくれたり、保護者が安心できるようにしたいと思った。（女子）
- 掃除の人はいろいろなところにおいて、トイレとかをキレイにしてくれているけど、ディズニーランドの人くらい話しかけやすい掃除の人はいないと思った。ただ、黙々と仕事をやっている人よりもニコニコしながら仕事をやっていた人の方がお客さんの側としては良い印象になる。（男子）

「ディズニーランドに行きたい！」世界中の人にそう思わせる大きな理由は、「お客様に夢と感動を与える」という理念に基づいて行動する1人1人の従業員の姿勢がもたらしているようです。ここでは、そうじ係までもが「カストーディアル」というキャストとなり、大きなパークの中でお客様のために自分にできる最大限の工夫と決断をしていました。明日から始まるチャレンジ体験、任された仕事を全うするのはもちろん、さらに、「相手のために…」という視点を持ち、あなた自身にできる最高の仕事をしてほしいと思います。2年生の先生たちは応援しています。いってらっしゃい！！

